京都府肝炎コーディネーター通信

第12号
令和８年11月発行
京都府健康対策課

肝炎コーディネーターをより身近な存在に

朝夕の冷え込みに秋の深まりを感じる季節となりました。
肝炎医療コーディネーターの皆様には、日頃から肝炎ウイルス検査の受検勧奨や患者支援など、地域における肝炎対策の推進に御尽力いただき、心より感謝申し上げます。
本号では、現場で活躍されているコーディネーターの活動紹介や肝炎に関する情報を掲載しております。ぜひ今後の活動の参考として御覧ください。

イラスト提供：京都肝炎友の会

第12号の内容

【お知らせ】世界肝炎デー報告
令和８年度【前期】京都府肝炎コーディネーター養成研修報告
令和８年度【後期】京都府肝炎コーディネーター養成研修のご案内
【特　集】　カンゾーさんが行く　「京都府立医科大学附属北部医療センターの取組について」
【御寄稿】　B型肝炎で肝臓がんを発症し、切除手術を受けて20年目を迎えることが出来ました。
【その他】　令和８年度活動報告のお願い
認定期間満了にともなう、再認定申請について

【お知らせ】

世界肝炎デー（7月28日）、啓発イベントを開催。



開催日：令和８年7月30日（木曜日）12時～13時
開催場所：ゼスト御池地下街河原町広場

7月28日の世界肝炎デー（日本肝炎デー）に合わせ、京都肝炎友の会及び京都市と協働し、肝炎ウイルス検査の必要性を広く知っていただき、多くの方に検査を受けていただくことを目的として啓発活動を実施しました。

今回は、前号の通信で協力を呼びかけたところ、２名の肝炎コーディネーターに御参加いただきました。当日は、京都府広報監まゆまろも参加し、肝炎に関するチラシやうちわ、ウェットティッシュを配布して啓発活動を行いました。

また、京都肝炎友の会及び京都府肝炎医療コーディネーターによる相談会にも、多くの方にお立ち寄りいただき、肝炎に関する相談や情報提供を行うことができました。

令和８年度【前期】京都府肝炎コーディネーター養成研修（新規・継続）の報告

以下の日程で開催し、多くの方に御参加いただきました。

（申込期間）令和８年６月１日（月）～６月 30 日（火）

（対象者）　医師、歯科医師、薬剤師、産業保健師、看護師、栄養士、医療事務
患者及び家族、自治会、自治体職員（全ての対象者）

（既認定者の合格者）　78 名

（新規受験者）　62 名

令和８年度【後期】京都府肝炎コーディネーター養成研修（新規・継続）の案内

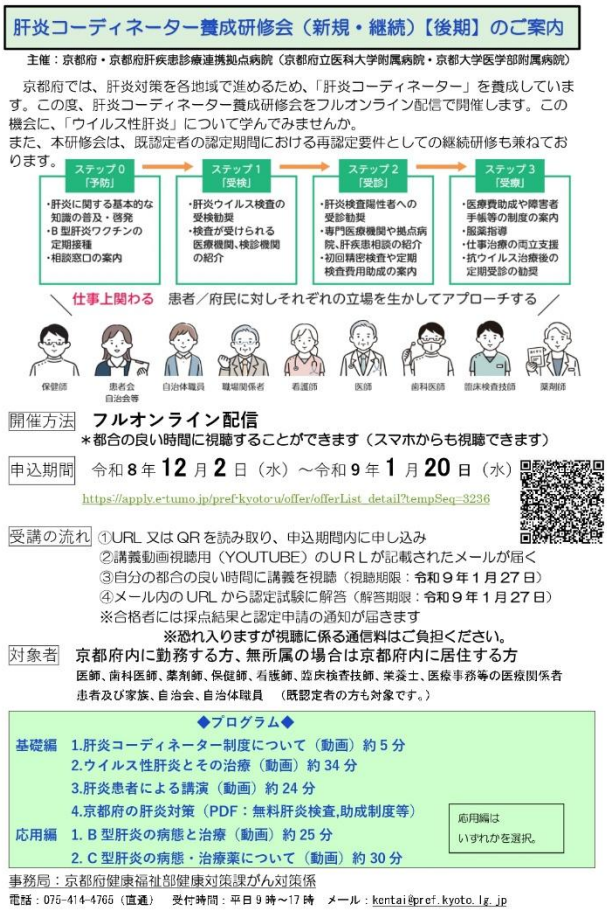
初めて受講される方：養成研修の受講と認定試験の合格により、認定されます、
既認定者の方：養成研修の受講と認定試験の合格により、再認定の要件となります。

（申込期間）令和８年 12 月２日（水）～令和９年１月 20 日（水）

（対象者）　京都府内に勤務する方、京都府内に居住する方
医師、歯科医師、薬剤師、産業保健師、看護師、栄養士、医療事務
患者及び家族、自治会、自治体職員などの全ての対象者

案内チラシ記載のＵＲＬ（又はＱＲコード）から申込画面で、簡単に申し込みが可能です。

https://apply.e-tumo.jp/pref-kyoto-u/offer/offerList_detail?tempSeq=3236



申し込み QR コード

【特集】　カンゾーさんが行く　京都府肝炎コーディネーター　インタビュー



今回は、京都府立医科大学附属北部医療センターの山下看護師にお話を伺いました。

手術やがん治療を受ける患者さんの中には、術前検査をきっかけに初めて B 型肝炎や C 型肝炎ウイルスへの感染が判明する人もいます。そうした患者さんを支えるため、外科・泌尿器科病棟ではどのような対応が行われているのでしょうか？

外科・泌尿器科病棟では、手術前に感染症検査が実施されます。その結果から、患者さん自身も知らなかった肝炎ウイルス感染が判明するケースがあります。病棟では主治医と連携し、手術は予定どおり実施した上で、退院後に消化器内科へつなげる方針をとっています。

一方で、病棟ではクリティカルパスを活用した短期入院が一般的であり、肝炎ウイルス感染が判明した場合でも、入院中に十分な説明や継続的なフォローを行うことが難しい現状があります。また、退院後に消化器内科を受診したかどうかを病棟看護師が把握することは難しく、その後の支援状況が見えにくいことも課題の一つと感じています。



術前検査で突然肝炎ウイルス感染が判明した患者さんは、「なぜ感染したのか」、「今後どうなるのか」などと大きな不安を抱えることがあります。

そうした患者さんに対し、「現在は適切な治療を受ければコントロールできること」、「医療費助成制度が活用できること」などを、より積極的に伝えていきたいと考えています。

感染が分かっただけで不安になる方も多いですが、適切な治療につながれば普段どおりの生活を続けることができることも知っていただきたいです。



各科との連携について、うまくいっている点や課題を感じる点があれば教えてください。
また、肝炎ウイルスへの感染チェックやフォローアップ体制について、現場で「もっとこうなればいい」と感じている点はありますか？

がん治療においては、化学療法による免疫機能の低下が B 型肝炎ウイルスの再活性化を引き起こすことがあります。そのため、当院では化学療法を受ける患者さん全員に B 型肝炎・C 型肝炎ウイルス検査を実施しています。
化学療法の同意書には検査日や結果を記載する欄が設けられ、未検査の場合には薬剤師から検査依頼が行われる体制が整えられています。



今年度は病棟の勉強会委員会のサポーターとして活動し、リーダーや委員会メンバーと協力しながら病棟全体の知識向上に向けた勉強会の企画・運営にも携わっています。
その活動の中で、「なぜ化学療法によって肝炎ウイルスが再活性化するのか」という仕組みまで十分に理解している看護師は限られているかもしれません。
看護師が正しい知識を持ち、治療中の注意点や肝炎治療薬を継続して服用する重要性について患者さんに分かりやすく説明できれば、患者さんはより安心して、安全に治療を続けることができると思います。
昨年度には、外科医師との勉強会の中で、化学療法による肝炎ウイルス再活性化のリスクや、治療薬の継続服用、定期受診の重要性について説明する機会もありました。
病棟スタッフの異動が毎年あることから、全員が同じ知識レベルを維持するためにも、継続的な教育が欠かせないと考えております。



最後に、読者へのメッセージをお願いします。

肝炎コーディネーターは、患者さんと医療機関をつなぐ大切な存在です。まずは医療従事者の間で、この制度の知名度を高め、正しい知識を共有することで、患者さんが安心して治療を受けられる環境づくりにつなげていきたいと思います。





手術やがん治療の現場では、肝炎ウイルス感染の早期発見や、再活性化予防が患者さんの安全な治療継続に欠かせません。

今回のインタビューからは、看護師による日々の気づきや院内連携、そして肝炎コーディネーターの活動が重要な役割を果たしていることが伝わってきました。

患者さんが安心して治療を受けられる医療環境を実現するためにも、肝炎に関する正しい知識の普及と継続的な支援体制の充実を期待しております。

取材にご協力いただきありがとうございました。



医療機関の皆さまへ

本通信では、肝炎ウイルスに関する啓発活動や連携体制構築など、参考となる取組を実践されている医療機関を紹介しております。

こうした優良事例を府内で共有し、水平展開を図ることは、地域全体の肝炎医療の質の向上につながります。医療機関の皆さまにおかれましては、ぜひ自施設での取組を「京都府肝炎コーディネーター活動報告」にてご報告いただき、情報発信・共有にご協力いただけますと幸いです。

◆京都肝炎友の会の田中征一郎様からの御寄稿をいただきました。

B 型肝炎で肝臓がんを発症し、切除手術を受けて
20 年目を迎えることが出来ました。

ちょうど 20 年前の 62 歳の 6 月に体調を崩し、かかりつけ医で血液検査を受け、翌日すぐに病院を紹介され、エコー検査で肝臓がんステージⅡの大きさ 4cm と宣告され、9 月に京都大学医学部附属病院へ入院し切除手術を受けました。

翌年再発、別の病院で「ラジオ波焼灼療法（RFA）」を受け、その後は 3 か月に一度の血液検査、半年に一度の画像検査、検査前後には気持ちが非常に不安定になります。それに核酸アナログ製剤の服薬を 20 年間続けており、おかげで血液中には B 型肝炎ウイルスは検出されなくなりましたが体内には存在します。ウイルスを眠らせる核酸アナログ製剤を死ぬまで飲み続けなければならないのと、肝臓がんの再発の恐れも多分にあります。

B 型肝炎及びウイルス性肝炎に因る肝臓がんを告知されたショック、開腹切除後のしんどさと、退院後の生活の大変さを実感しました。家内の献身的な介護や大学時代の友人のアドバイスと、患者会の仲間たちとの交友で存命しているのだと実感しているとともに、他の人にこの様な思いをしてほしくない。

現在では肝臓専門医や拠点病院があり、ウイルス性肝炎と判明したら専門医へ紹介され、治療出来うる時代になりました。医療の進歩はすごく、肝臓がんの治療方法についてもいくつかの選択肢が増え、20 年前の医療とは雲泥の差と思います。

肝炎友の会が主催した医療講演会や相談会で多くの患者さんの悩みを聞いたり相談にのったり、C 型肝炎ウイルスを根治する薬剤ができた時に製薬会社の京都での説明会の司会をさせていただいたり、京都府の肝炎対策のお手伝いや、京都府肝炎コーディネーター養成の講師をごく最近までさせていただいたり、市内の看護学校や大学で患者講師として、又、ある大手の製薬会社の社員教育を 3 年間させていただきました。それらが現時点では完治できない病気を持ちながら生きていく支えとなっています。

C 型肝炎ウイルスは排除する薬ができ、ほぼ完治する病気となりましたが、B 型肝炎ウイルスは巣くっている場所が人間の細胞の内部で、創薬開発が難しく私があと何年生きられるかしれませんが、生きている間には無理かも！

この 20 年間で私の存じ上げている方が 6 名もウイルス性肝炎の肝臓がんでお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。

京都府にも多数の京都府肝炎コーディネーターが輩出されております。機会があれば交流が図れればと思います。

長文になりましたが最後までお読みいただきありがとうございます。



このキャラクターは私が作成しました。
京都府、京都市で使用して戴いており
ありがとうございます。

京都府肝炎コーデイネーター
京都肝炎友の会世話人
田中征一郎

【その他の御案内】

活動報告

令和７年度までの認定者の方に「京都府肝炎コーディネーター活動報告」をお願いします。
「報告」のご案内は今後、郵送またはメールにて送付します。

再認定の申請

令和２年度認定者、および令和５年度認定者の方には、任期満了にともない、
「再認定申請」のご案内は今後、郵送またはメールにて送付します。
「再認定」には、要件があります。

※京都府肝炎コーディネーターの再認定の要件（抜粋）以下のいずれかを満たすこと。

（１）在任中に府又は京都府肝疾患診療連携拠点病院が実施する肝炎コーディネーター養成研修又は継続研修を受講した者

（２）在任中に活動状況報告を提出した者

（３）在任中に肝炎患者等を支援する市民公開講座、肝臓病教室、患者サロン等に参加した者

御寄稿

肝炎コーディネーターの方に、コーディネーター通信への寄稿を募集しています。
https://apply.e-tumo.jp/pref-kyoto-u/offer/offerList_detail?tempSeq=298

啓発資材

患者への啓発活動にご活用ください。
https://apply.e-tumo.jp/pref-kyoto-u/offer/offerList_detail?tempSeq=326

登録内容の変更

異動・転居などにより活動状況（休止等）や連絡先の変更について
https://apply.e-tumo.jp/pref-kyoto-u/offer/offerList_detail?tempSeq=2432

後記文

今号では、Ｂ型肝炎による肝臓がんの手術から 20 年を迎えられた田中様の体験談を掲載しました。長年にわたり治療と向き合いながら日常生活を送ってこられた歩みには、多くの方への励ましとなるメッセージが込められていると感じます。

皆様とともに学び合い、よりよい肝炎対策の輪を広げていければ幸いです。

発行：京都府肝炎コーディネーター事務局
〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入薮ノ内町　京都府健康福祉部健康対策課
電話：075-414-4766　FAX：075-431-3970　kentai@pref.kyoto.lg.jp